

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
318	こくごひょうげん 国語表現	総：4 工：2	3	総合学科 工業科	F選択 必修

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の方法

知識・技能及び思考・判断・表現は、定期テストやレポートで評価する。

主体的に学習に取り組む態度は、論述等の記述や提出物等への取組状況、授業に取り組む主体性で評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	分かりやすく説明しよう	情報の整理・伝達	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	○		
			自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。		○	
			分かりやすい説明に必要なことを粘り強く理解しようとし、学習課題に沿って、言葉選びや言葉遣い、情報の整理の仕方などの観点から、説明の表現をよりよくしようとしている。			○
5	「問い」を考えよう	インタビュー	連絡方法の種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	○		
			目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。		○	
	(中間試験)		コミュニケーションや思考において「問う力」が重要であることを理解し、インタビューの企画、準備、実施、インタビュー記事の執筆活動に臨んでいる。			○
6 7	「自分」を表現しよう	面接・自己PR	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。		○	
	(期末試験)		自分を表現する活動を通じて、相手に共感をもって聞いたり読んだりしてもらうために必要なことをよく理解し、改善しようとしている。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	身体で表現しよう	言語以外の表現	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。		○	
			即興で演じる活動を通じて、身体が表現することをよく意識し、スピーチや発表などの際に効果的に伝えられるよう、表現の仕方を改善しようとしている。			○
10	話し合う力をつけよう (中間試験)	ファシリテーション	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	○		
			目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。		○	
			紹介したい本を積極的に選び、その本の魅力を粘り強く探し、他の人にも興味を持ってもらえるように、紹介する内容を十分に吟味し、表現の仕方も工夫しようとしている。			○
11	情報活用力を身につけよう	広報資料	実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めている。	○		
			読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。		○	
			報告書を元に広報資料を作る活動で、媒体や主な読者に合わせて作ることの重要性をよく理解し、制作物に反映しようとしている。			○
12	説得力のある提案をしよう (期末試験)	プレゼンテーション	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	○		
			論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。		○	
			プレゼンテーションを行う活動を通して、説得力のある提案をするために必要なことをよく理解し、今までの学習を生かして実践しようとしている。			○
1	表現を楽しもう	創作	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。		○	
			創作する際に、読み手にどう伝わるかを常に意識し、粘り強く作品へ反映させようとしている。			○
2	心をつかむ表現 (学年末試験)	作品制作	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。		○	
			教材文を読んで、社会で必要とされている表現の大切さを十分理解しようとしている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
319	英語コミュニケーションⅡ演習	4	3	総合学科	系列選択F

履修条件、選択上の留意事項等

・上級レベルの英語を学ぶ強い意欲が必要である
 ・英語で多くの文を読み、聞き、書き、話すので予習は必須である
 ・2学期からは共通テスト・リスニング問題集とリーディング問題集を使って問題演習を実施するので、自力で解説を読んで調べて、研究・理解できる生徒のみ選択するようにして下さい

科目の目標

- ・共通テストに対応できる実践的な英語力を養う。
- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。
- ・英語を教わる以上に、自分で積極的に英語をマスターしていく意識と習慣を身に付ける。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	英文法と多くの単語のUSAGEを正確に理解し、活用することができる。
② 思考・判断・表現	リーディングでは長文を速く正確に読解し、情報や考えを理解することができる。リスニングでは英語を正確に把握することができる。ライティングとスピーキングでは、情報や考えを適切に伝えることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	英語によるコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ることができる。

評価の方法

定期テスト、パフォーマンステスト、自己評価、課題提出

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	transfer C Unit 1,2	エッセイ、グラフ 動詞の語法、時制 □ □ □	発音・アクセントのルールを理解する。エッセイやグラフを読み取り、動詞の使い方を学ぶ。	○	○	○
5	transfer C Unit 3,4	エッセイ、ホームページ 助動詞、受動態	エッセイやホームページを読み取り、助動詞の使い方、受動態の基本の他、特殊な表現を理解する。	○	○	○
6	transfer C Unit 5,6	エッセイ、ニュースサイト 不定詞、動名詞□ □	エッセイやニュースサイトを読み取り、不定詞、動名詞、を正しく区別することができる。	○	○	○
7	transfer C Unit 7	エッセイ 分詞 準動詞まとめ	エッセイを読み取り、分詞の様々な表現を理解する。I学期文法事項の復習	○	○	○
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	共通テスト・リスニング問題集 共通テスト・リーディング問題集	第1～3回 第1～2回	共通テストの問題形式に慣れ、高得点が取れるように演習問題に取り組む。模範解答で自己採点し、能力を高める。	○	○	○

10	共通テスト・リスニング問題集 共通テスト・リーディング問題集	第4～6回 第3～4回	共通テストの問題形式に慣れ、高得点が取れるように演習問題に取り組む。模範解答で自己採点し、能力を高める。	○	○	○
	11 共通テスト・リスニング問題集 共通テスト・リーディング問題集	第7～9回 第5～6回	共通テストの問題形式に慣れ、高得点が取れるように演習問題に取り組む。模範解答で自己採点し、能力を高める。	○	○	○
	12 共通テスト・リスニング問題集 共通テスト・リーディング問題集	第10～12回 第7回	共通テストの問題形式に慣れ、高得点が取れるように演習問題に取り組む。模範解答で自己採点し、能力を高める。	○	○	○
	1 共通テスト・リスニング問題集 共通テスト・リーディング問題集	第13～14回 第7回	共通テストの問題形式に慣れ、高得点が取れるように演習問題に取り組む。模範解答で自己採点し、能力を高める。	○	○	○
2						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
320 377・381	物理	4	3	総合学科 工業科	系列選択F 類型選択D・自由選択

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科は、2年次に「物理基礎」を必ず履修してあること。

科目の目標
物理的・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	日常生活や社会と関連付けながら、物理の各単元の内容を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	物理の各単元の内容について、観察、実験など通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理の各単元の内容に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価の方法	
小テスト、定期テストへの取り組み状況 ワークシートや振り返りシート、課題レポート、その他提出物の記述の点検、確認、分析 実験とその考察、プレゼンテーションの取組状況の確認、分析 演習への取組やグループワークへの取組状況の観察、確認、分析	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	さまざまな運動	平面内の運動	平面内を運動している物体のようすを表すのに必要な物理量のうち、変位、速度、加速度について理解する。	○		
		放物運動	水平投射・斜方投射の物体の運動を水平方向と鉛直方向に分解し、どのように成分表示されるか表現することができる。		○	
		剛体のつり合い	実験を通して、剛体がつり合っているときの力の関係や力のモーメントの関係について考察する。		○	
5		力積と運動量	運動量と力積の関係について、実験などをもとに考えることができる。			○
		運動量の保存	直線上で物体が衝突するときに、どの物理量がどのような関係になっているか、仮説を立て、検証方法や準備を考え、実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。		○	
		反発係数	さまざまなボールを床に落としたときのはね返るようすからボールを落とす高さとはね返る高さにどのような関係があるか考えたり、表現しようとしていたりしている。		○	
			得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○
		円運動	等速円運動を表す量として、周期や回転数、速度、角速度について理解し、その表し方について理解している。	○		
		慣性力	円運動において、静止している場合と加速度運動している場合とで区別して、物体の運動について理解している。	○		
6		単振動	単振動が等速円運動の射影であることから等速円運動を表す量と対応させて角振動数や位相を理解し、単振動の変位、速度、加速度の表し方を理解している。	○		
	さまざまな単振動	鉛直ばね振り子が単振動するときどのような力がはたらき、周期がどのように決まるかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。		○		
	単振動のエネルギー	単振動のエネルギーがどのように表されるかを理解している。	○			
	惑星の運動	惑星の観測資料（諸定数）から、惑星の運動に関する法則性について考察したり、表現したりしようとしている。		○		
	万有引力	万有引力の法則について理解している。	○			
	気体の性質	理想気体とはどのような気体が理解している。また、理想気体の状態方程式を使うことができる。	○			

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
7		気体分子の運動と状態方程式	気体の圧力や絶対温度、内部エネルギーを、気体分子の運動をもとにどのように考え、表すことができるか理解している。	○		
		熱力学第1法則と気体の状態変化	気体を急激に圧縮したときにどのような結果になるか熱力学第1法則から科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○
		熱力学第2法則と熱機関	熱力学第2法則を理解し、熱効率や可逆変化、不可逆変化との関係やさまざまな表現方法について理解している。	○		
8	波	波の表し方	正弦波を式で表す方法や位相について理解している。	○		
		波の伝わり方	2つの波源から生じた水面波が干渉するとき、任意の点について強め合う条件と弱め合う条件を説明することができる。		○	
		音の性質	物理基礎で学習した音の性質を振り返りつつ、ここまでで学習した屈折や回折、干渉が音でも見られることを理解している。	○		
9		ドップラー効果	音源または観測者のどちらかのみが動く場合のドップラー効果をもとに音源と観測者の両方が動く場合のドップラー効果について考えることができる。		○	
			日常生活でドップラー効果が観測できる場面や社会でどのように利用されているか調べ、そのしくみを知ろうとしている。			○
		光の伝わり方	光の性質として全反射、分散、偏光、散乱について理解している。	○		
		光の回折と干渉	2重スリットを用いた光の回折・干渉を観察し、干渉縞の間隔から波長を求めるための実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○
		レンズと鏡	凸レンズや凹レンズを通る光の進み方を理解し、これらのレンズによる像のでき方について理解している。	○		
10	電気と磁気	静電気	2つの点電荷の間にはたらく静電気力についてクーロンの法則を理解し、実際に問題で利用することができる。	○		
		電場	電場の強さを電気力線の本数で表すことができること（ガウスの法則）の考え方について説明できる。		○	
		電位	点電荷のまわりの電位や複数の点電荷のまわりの電位の表し方や求め方について説明することができる。		○	
		電場の中の物体	静電誘導と箔検電器のしくみについて理解し、箔検電器に帯電体を近づけるなどの操作をしたときに箔検電器がどのように振る舞うか考えることができる。		○	
		コンデンサー	コンデンサーの充放電のしくみについて理解しコンデンサーが蓄える電気量や平行板コンデンサーの電気容量について理解している。	○		
		電流	物理基礎で学習した電流の大きさやオームの法則、ジュール熱、電力について、自由電子の運動の視点から説明することができる。		○	
		直流電流	電池に接続した抵抗の抵抗値を変化させていったときの電池の端子電圧と回路を流れる電流の関係を調べるための実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○
		磁場	磁場について理解し磁場の向きと強さの定義を理解している。	○		
11		電流が作る磁場	直線状の電流がつくる磁場について理解している。	○		
		電流が磁場から受ける力	磁束密度の定義について理解し、磁束密度の大きさと磁場の強さの関係について説明することができる。		○	
		ローレンツ力	一様な磁場中での荷電粒子の運動のようすについて理解している。	○		
		電磁誘導	コイルを貫く磁束を変化させたとき、誘導起電力の向きと大きさを予想し、科学的に分析、考察し、議論して深く考えようとしている。			○
		自己誘導と相互誘導	自己誘導・相互誘導とはどのような現象かを理解している。	○		
		交流	RLC回路の共振現象や電気振動がどのような現象か知り、それぞれの現象の特徴を考えることができる。		○	
12	原子	電子	陰極線の正体である電子の比電荷についてトムソンの実験による比電荷の求め方について考えることができる。		○	
		光の粒子性	光子について理解し光子による光電効果について理解している。	○		
		X線	X線が粒子性をもつことをコンプトン効果と関連付けて理解し、波長の変化について考えることができる。		○	
I		原子と原子核	標準模型といわれる素粒子理論や宇宙の進化モデルについて知ろうとしている。			○
		物理学が築く未来	先端で研究されている物理学の理論や今後発展が期待されている事例について調べたり自分のキャリアについて考えようとしている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
321	生物	4	3	総合学科	系列選択 F

履修条件、選択上の留意事項等

総合学科で2年次に「生物基礎」を履修した者が履修できる。

科目の目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象の事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 観察、実験などの基本操作を習得し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会と関連を図りながら生物や生物現象について関心を持っている。

評価の方法

記述の点検、確認、分析

行動の観察、確認、分析

(定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	生物の進化	生命の起源と細胞の進化 遺伝子の変化と進化のしくみ	資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解している。	○		
			細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。	○		
			突然変異と生物の形質の変化との関連、交配による遺伝子の組合せの変化を理解している。	○		
			進化のしくみに関する観察、実験を通して、遺伝子頻度が変化する要因を見いだして表現できている。		○	
5	生物の系統と進化		資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列の関係を見いだして理解している。	○		
			霊長類に関する資料に基づいて、人類の系統と進化を形態的特徴などと関連付けながら説明できている。		○	
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
6	生命現象と物質	細胞と分子 代謝	資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。	○		
			生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象とを関連付けて表現できている。		○	
			呼吸のしくみについて、エネルギーの流れと関連付けながら説明できている。		○	
			光合成のしくみについて、エネルギーの流れと関連付けながら説明できている。		○	
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
7						

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発言 発生と遺伝子発現	資料に基づいて、DNAの複製と遺伝子の発現のしくみを理解している。	○		
			資料に基づいて、遺伝子の発現のしくみとその調節をタンパク質に関連付けて表現できている。		○	
		遺伝子を扱う技術	発生の過程とともに、その過程における細胞の分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解している。	○		
			遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解している。	○		
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
10 11 12	生物の環境応答	刺激の受容	外界からの刺激の受容について、関与する器官と細胞の特性と関連付けて説明できている。		○	
		神経系と情報の統合	神経細胞と神経系の構造とともに、脳や脊髄での情報の統合や処理のしくみについて理解している。	○		
		刺激への反応	効果器としての筋肉の構造を理解し、刺激による収縮のしくみについて理解している。	○		
		動物の行動	資料に基づいて、動物の行動と神経系のはたらきを関連付けて表現できている。		○	
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
		植物の環境応答	植物ホルモンの存在やそのはたらきを理解し、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わっていることを理解している。	○		
			資料に基づいて、植物の成長や花芽形成における光との関わりを説明できている。		○	
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
1 2	生体と環境	個体群と生物群集	個体群内の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を見いだして表現できている。		○	
			個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持されるしくみや個体群間の関連性を見いだして理解している。	○		
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
		生態系	生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環を理解している。	○		
			生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして表現できている。		○	
			日常生活との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
322	財務会計	4	3	総合学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等
2年次、簿記を履修していること。企業活動に関する財務会計について興味関心を持っていること

科目の目標 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。
② 思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力をつけようとする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度をつけようとする。
評価の方法	
授業への取り組み状況、定期テスト、小テスト、その他提出物等への取組状況等	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	財務会計の基礎	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と企業会計 第2章 企業会計制度と会計基準	企業会計の意義やその役割、企業会計制度 財務会計と管理会計の違いおよび財務会計の機能 会社法と会社計算規則、金融商品取引法と財務諸表等規則、法人税	○		
	貸借対照表	第2編 資産 第3章 資産の分類と評価 第4章 流動資産（その1 当座資産） 第5章 流動資産（その2 棚卸資産・その他の流動資産）	資産評価の意味とその評価基準、資産評価の考え方 当座資産の各項目の記帳法、評価法 棚卸資産の取得原価、期末評価、棚卸減耗損・商品評価損 売価還元法	○	○	
5		第6章 固定資産（その1 有形固定資産）	有形固定資産の意味と種類 有形固定資産に対する支出について資本的支出と収益的支出	○	○	
6		第7章 固定資産（その2 リース取引） 第8章 固定資産（その3 減価償却）	リース資産の意味と分類、その会計処理 減価償却費の意味と減価の発生原因 減価償却の計算方法、固定資産の買い替えと除却の処理法			○
		第9章 固定資産（その4 無形固定資産）	無形固定資産の意味と種類、期末評価	○	○	
7		第10章 固定資産（その5 投資その他の資産）	投資その他の資産の意味と種類	○		

月		題材 (使用教科書項目)		評価の観点		
				①	②	③
9		第3編 負債と純資産 第11章 負債 第12章 純資産	流動負債と固定負債の意味と種類 引当金の意味とその処理法 偶発債務の意味と、その処理法 資本金・資本剰余金の増加・減少の意味とそれぞれの処理法 利益剰余金の内容とその増加や減少に関する処理法 新株予約権の意味と、その処理法	○ ○	○ ○ ○	○
10	損益計算書	第4編 損益計算 第13章 損益計算の意味と基 第14章 営業損益の計算	損益計算の基準（発生主義・実現主義） 営業費用の内容と種類	○	○	
		第15章 経常損益の計算（そ の1 営業外損益） 第16章 経常損益の計算（そ の2 外貨建取引）	営業外損益 外貨建取引の意味会計処理	○ ○		
11		第17章 当期純利益の計算 （その1 特別損益）	特別損益の意味とその会計処理	○		
12		第18章 当期純利益の計算 （その2 法人税等）	株式会社が納付する税金の種類 法人税等の会計処理, 税効果会計の意味と会計処理		○	○
1		第5編 第19章 貸借対照表の作成 第20章 損益計算書の作成	貸借対照表の作成方法や形式、区分と科目の分類、配列 報告式による貸借対照表の作成方法 損益計算書の形式、区分と科目の分類、配列 報告式による損益計算書の作成方法	 ○	○ ○ ○	○
2	連結財務諸表 財務諸表活用基礎	第21章 その他の財務諸表の 作成 第22章 財務諸表分析 第23章 連結財務諸表の活用	株主資本等変動計算書の作成方法、注記表の作成方法 財務諸表分析の方法 連結財務諸表の意味と作成目的	○	 ○	 ○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
323	こころとからだの理解	2	3	総合学科 (健康福祉系列)	系列選択F

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨 ① 知識・技能 自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、介護者としての倫理観を踏まえて、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 科学的根拠に基づいた生活の支援の実践を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。 評価の方法 定期テスト、小テスト、課題レポートやその他の提出物等への取り組み状況、授業への取り組み状況。

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	こころとからだの基礎的理解	こころの理解	健康とは何か、人間の欲求、動機づけ、自己概念と尊厳・自己実現、思考と感情のしくみ、学習や記憶のしくみ、知能のしくみ、適応と防衛機制について理解する。	○	○	○
5		からだのしくみの理解	生命維持と恒常性、脳・神経系、運動器系、循環器系、消化器系、呼吸器系、感覚器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、血液・免疫系の各しくみについて理解する。	○	○	○
6	生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	生活動作に関するこころとからだのしくみ	身じたく、移動、食事、入浴、排泄、睡眠・休養に関するこころとからだのしくみについて理解する。	○	○	○
		生活場面の変化に関するこころとからだのしくみ	感染、緊急時、災害時、終末期に関するこころとからだのしくみについて理解する。	○	○	○
7						

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	発達と老化の理解	人間の成長と発達	発達、発達段階、発達課題について理解する。	○		○
10		老年期の理解と日常生活	老年期の定義と特徴、加齢に伴う心身の変化について理解する。 加齢に伴う心身の変化が日常生活に及ぼす影響について理解する。 高齢者の心理について理解する。	○	○	○
		高齢者と健康	高齢者の疾病と生活上の留意点について理解する。 高齢者の健康の維持・増進について理解する。 保健・医療職との連携について理解する。	○	○	
11	認知症の理解	認知症をとりまく状況	認知症ケアの歴史を知り、よりよいケアの理念について理解する。 認知症高齢者の現状と認知症に関する施策について理解する。	○	○	○
		認知症の基礎的理解	診断方法、原因となる主な病気の特徴、治療と予防について理解する。	○	○	
		認知症に伴う心身の変化と日常生活	認知症の人の心理や特徴的な症状について理解する。 認知症に伴う生活障害と行動や言葉の背景について理解する。	○	○	
12		認知症と地域サポート	地域に置けつ認知症の人に対するサポート体制について理解する。 家族への影響と支援について理解する。	○	○	
1	障害の理解	障害の基礎的理解	障害の構造と障害者の定義について理解する。	○	○	○
		生活機能障害の理解	身体障害、精神障害、知的障害、発達障害、高次脳機能障害、難病の種類と生活上の困難について理解する。			
2		障害に伴う心身の変化と日常生活	障害のある人の心理、生活上の困難について理解する。			
		障害と地域生活支援	障害のある人の地域における生活支援体制について理解する。 障害のある人の地域サポート体制、家族が抱える問題について理解する。			

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
324	生活支援技術	2	3	総合学科 (健康福祉系列)	系列選択F

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 （１）自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 （２）自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 （３）健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法	
定期テスト、小テスト（実技テストを含む）、課題レポートやその他の提出物等への取り組み状況、授業への取り組み状況。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	生活支援の理解	生活の理解	生活（日常生活）の構成要素をとらえ、生活の個性性や多様性について理解する。 人生の節目やその時々の特徴と高齢者の生活について理解する。	○	○	○
		生活支援の考え方	基本的な支援のあり方、生活支援のために必要な事について理解する。 尊厳の保持の大切さと自立支援とは何かについて理解する。 介護予防の取り組みとリハビリテーションについて理解する。	○	○	○
5		生活支援と介護過程	意図的な介護、根拠に基づいた生活支援について理解する。 生きることの全体像をとらえるためのICFについて理解する。	○	○	○
		多職種協働と他の専門職の役割	生活支援をするためのチーム連携の必要性について理解する。 生活支援に関わる他の専門職について理解する。	○	○	
6	自立に向けた生活支援	居住環境の整備	居住環境整備の基本理念を理解する。 快適で安全な居住環境に求められるポイントを理解する。 高齢者および障害者の住まいの状況について理解する。	○	○	
		家事の支援	自立生活を支える家事支援の意義とICFの視点について理解する。 調理・食品の保存・衛生管理、洗濯、清掃・ゴミ捨て、裁縫、衣類・寝具の衛生管理、買い物、家庭経営・家計の管理の意義を知り、必要性や課題について理解する。	○	○	○
7		身じたくの支援	身じたくの自立が生活に及ぼす影響について理解する。 整容・口腔ケアなどの身じたくの支援の技法について理解する。	○	○	○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9 10 11	自立に向けた生活支援	移動の支援	移動は日常生活に不可欠な基本動作であることを理解する。 安全・安楽・安心な移動の基本的な支援方法について理解する。	○	○	○
		食事の支援	食事の支援にかかわる基本的知識について理解する。 食事の支援の技法について理解する。	○	○	○
		入浴・清潔保持の支援	入浴・清潔保持の支援にかかわる基本的知識について理解する。 入浴・清潔保持の支援を行う際の事前準備や留意点、技法について理解する。	○	○	○
		排泄の支援	排泄の支援にかかわる基本的知識、技法について理解する。 排泄障害の種類を把握し、その対応について理解する。	○	○	○
		睡眠・休養の支援	睡眠・休養の支援にかかわる基本的知識について理解する。 睡眠・休養の支援の技法について理解する。	○	○	○
	緊急時・災害時の支援	レクリエーションの支援	レクリエーションの支援にかかわる基本的知識について理解する。 レクリエーションの支援の技法について理解する。	○	○	○
		緊急時の支援	緊急時における支援の意義と目的について理解する。 緊急時における応急手当の方法について理解する。	○	○	○
		災害時の支援	災害の種類と災害時における介護従事者の役割について理解する。 災害時における利用者の生活支援の方法と、他職種との連携について理解する。	○	○	○
		終末期の支援	終末期の支援の意義と本人・意思を尊重した支援について理解する。 終末期の支援における介護従事者の役割について理解する。	○	○	○
		死を迎える人への支援の留意点	死を迎える人に必要とされる支援方法について理解する。 死後のケアにおいて介護従事者に必要とされる考え方を理解する。	○	○	○
1 2	医療的ケア	医療的ケアの理解	介護福祉士の業務としての医療的ケアについて理解する。 健康状態の把握方法について理解する。	○	○	○
		高齢者及び障害者の喀痰吸引	喀痰吸引の必要と安全で的確な喀痰吸引に関する技術を理解する。			
		高齢者及び障害者の管理栄養	経管栄養に関する知識について理解する。			

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
325	器楽	2	3	総合学科	系列選択 F

履修条件、選択上の留意事項等

選択クラス授業

科目の目標

器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表現している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知見し、それらの働きを感受しながら、知見したものと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法

実技やレポートを中心に、授業態度や課題で総合的に判断して評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	初級者 中級者 上級者	バイエル ブルクミュラー ソナチネ	正確な指使い、適切なテンポでの演奏ができるようになる。 強弱、曲想記号の表現方法を工夫する。	○ 	 ○ ○	
6 7	初級者 中級者 上級者	バイエル ブルクミュラー ソナチネ	正確な指使い、適切なテンポでの演奏ができるようになる。 強弱、曲想記号の表現方法を工夫する。	○ 	 ○ ○	
9 10	初級者 保育系進学者 音楽系進学者	バイエル、童謡 ピアノによる弾き歌い アンサンブル	正確な指使い、適切なテンポでの演奏ができるようになる。 ピアノによる弾き歌いができる 正しくアンサンブルができる	○ 	 ○ 	 ○
11 12	初級者 保育系進学者 音楽系進学者	バイエル、童謡 ピアノによる弾き歌い アンサンブル	正確な指使い、適切なテンポでの演奏ができるようになる。 ピアノによる弾き歌いができる 正しくアンサンブルができる	○ 	 ○ 	 ○
1 2	初級者 保育系進学者 音楽系進学者	バイエル、童謡 ピアノによる弾き歌い アンサンブル	発表会、講評会	 	 	○ ○ ○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
326	ソルフェージュ	2	3	総合学科	系列選択F

履修条件、選択上の留意事項等

選択クラス授業

科目の目標

ソルフェージュに関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にする態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	音楽性豊かな音楽表現をするために必要な音程感覚や楽譜から音楽を読み取る能力を身に付け、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、声楽や器楽の音楽表現の表現意図を持っている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音楽を形づくっている要素に関心を持ち、個性豊かな表現や主体的な演奏、鑑賞活動に取り組もうとする。

評価の方法

実技やレポートを中心に、授業態度や課題で総合的に判断して評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	視奏、視唱	コンコーネ、コールユーブンゲン	正しい音程で歌える。正しいリズムで演奏できる。 美しいハーモニーをつくれる。	○		
	楽典	テキスト	音部記号・変化記号・音名を覚える。基本的な音符と休符の長さを覚える。 拍子の種類や弱起、強起を理解する。		○	
	聴音	旋律聴音	4小節の単旋律が聴き取れるようになる。		○	
6 7	視奏、視唱	コンコーネ、コールユーブンゲン	正しい音程で歌える。正しいリズムで演奏できる。 美しいハーモニーをつくれる。	○		
	楽典	テキスト	音部記号・変化記号・音名を覚える。基本的な音符と休符の長さを覚える。 拍子の種類や弱起、強起を理解する。		○	
	聴音	旋律聴音、和声聴音	8小節の単旋律と二声の和声が聴き取れるようになる。		○	
9 10	視奏、視唱	コンコーネ、コールユーブンゲン	楽曲を音楽的に演奏できる。 童謡を伴奏つけて歌うことができる。	○		
	楽典	テキスト	音階と調性の関係を理解する。 音楽の基礎形式を理解できる。		○	
	聴音	旋律聴音、和声聴音	単旋律と二声の旋律が聴き取れるようになる。 三声の和声が聴き取れるようになる。		○	
11 12	視奏、視唱	コンコーネ、コールユーブンゲン	楽曲を音楽的に演奏できる。 童謡を伴奏つけて歌うことができる。	○		
	楽典	スコアリーディング	音楽の基礎知識を活用して、楽曲のアナリゼができるようになる。		○	
	聴音	旋律聴音、和声聴音	単旋律と二声の旋律が聴き取れるようになる。 四声の和声が聴き取れるようになる。		○	
1 2	発表、講評	発表会、講評会	聴衆の前で発表演奏ができる。正しく講評できる。			○